

総務文教委員会記録

令和3年2月15日（月）
13時30分～15時29分
第1委員会室

- 【委員】 西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員
- 【委員外】
- 【議長団】
- 【事務局】 下間書記

【議題】

- 1 【取組課題】 こどもの可能性を育む幼児教育について（委員間で協議）

2 その他

【議事の経過】

[13 時 30 分 開議]

西村委員長

出席委員は8名で定足数に達しているため、ただいまから総務文教委員会を始める。

1. 【取組課題】こどもの可能性を育む幼児教育について（委員間で協議）

西村委員長

今日は委員だけの討議となる。なぜ市立幼稚園が必要なのかについて皆から意見を出していただくようお願いしていた。全員出たか。

下間書記

はい、委員長以外。今タブレットに配信している。

西村委員長

これは後でやるとして、とりあえず前回の直しだけ確認して。特に三浦委員から修正案をいただいた。

下間書記

今送ったのが三浦委員からのご意見も反映させた、現段階の最終案である。

西村委員長

三浦委員、どういう視点でどう修正したかポイントだけご説明いただけないか。

三浦委員

提言書案2ページ目に「1 浜田市幼児教育振興アクションプラン策定について」と「2 浜田市幼児教育センターを中心とした幼児教育推進体制の確立について」ということで、大きく2項目に再編集している。プランをつくることはもちろん重要だということでもこれまでも議論があったことをきちんと位置づけたほうがよいが、策定がゴールではなく策定の先にあるアクションが重要で、その部分においては幼児教育センターを中心とした幼児教育推進体制の確立、この2のところは結構議論されたり、個別に意見が出ていたので、こういう形で項目立てすれば整理できた感じである。

ただ、社会教育施設との連携や特別な配慮が必要な子どもたちへの保育の提供といったことは、県の幼児教育振興プログラムの中に項目立ててある。

そのうち幾つかだけを取り出して書くには、まだ十分に議論がなされていないのではというところもあり、社会教育施設との連携強化はアクションプランの策定のところに盛り込む形にして、(1) から (3) までまとめた。

アクションプランの策定において、現場の意見を聞くことなど、二つ項目を立ててあったが、それも改めて (1) から (3) に編集し直したところに内包する形で書き直している。

アクションプランの中身については、ここではしっかり触れられていないが、そこは島根県の振興プログラムに従っていくのであれば、各項目についてもう少し深い議論が提言には必要かと、個人的には思った次第である。プランの策定についてであれば今までの議論で触れられていた部分を提案するというので、(1)、(2)、(3) くらいでよいのではと思います、こういう形にした。

西村委員長

私も一通り読んだつもりであるが、1の策定についての部分は、表現上このように表現するにとどまっているのか。

三浦委員

今まで書かれていた部分を少し編集はしているが、言っていることは変わっていない。

西村委員長
三浦委員

このほうがすっきりしている。

2のところは、組織上の位置づけと業務内容という2項目が、大きく分けて提言内容かと思うので、この間の話でも出たように(2)の業務内容については①から③に分けた。

西村委員長
三浦委員

これはこの前、三浦委員の意見として出ていた。

はい。

西村委員長
三浦委員

こういう分け方でよいのか。

前段とはまったく。

西村委員長
三浦委員

皆、理解いただけているだろうか。

加えて言うと、1のアクションプランの策定については、教育振興計画において明確にうたうということが、この間の話に出ていたかと思うので、1番によりわかりやすく持ってきた。

西村委員長
三浦委員

そのほうが私もよいと思う。

アクションプランをつくったものは、幼児教育センター開設に併せてプロジェクトチームを立ててというのがあったので、それを2番目に。その過程において現場での声を十分把握するとつけ加えた。

三つ目は「らしさ」で、その「らしさ」もどのようにということはまだ深く議論できてないので、それを1項目だけ取り出すと浮いてしまうのでこちらに入れた。

西村委員長

「らしさ」は具体性のある話がここで展開されないとおもしろみがない。

三浦委員

そこが議論できたらすごくよい。しかし島根県の幼児教育振興プログラムそのままだと、それはあくまでプログラムなので、それを浜田で実践するとなるとどうやるのかを考えること自体が、広義の意味でいえば浜田らしさになるので、社会教育施設はそのまち独特のものがあるので。

その下に社会教育と家庭教育の二元化はつけ加えているので、ここは浜田市の教育方針の中でも大きな柱になっているところなので、これを踏まえるとすれば浜田らしさは、こういう事業と一緒に考えることになるかと思う。

西村委員長

今回悩んだのだが、この今回のテーマをこのまま個人一般質問に上げた。勉強途中で自分の気づきとして思ったのは、11月の全員協議会資料を見ると、市の描いている幼児教育センターは、幼稚園組織の中にセンターがあるようなイメージに読み取れる。市が展開する想定をした場合、ここが非常に大きなネックになってくるのではないかと。

三浦委員

僕はそれについて一つ疑問を持っている。幼児教育とはイコール幼稚園教育ではないということを確認した。そうすると3歳以下はどうするのか。そういうことも含めての幼児教育センターならば、幼稚園が子どもたちを直接見られる現場として100%適切とは言い切れない。それを執行部は、子どもたちが現場にいて実践を踏まえながら現場での情報をほかの園に共有できるというのがセンターの役割だと言っているが、では3歳以下についてはどうやって情報を見るのかが少し抜けている。

そこも明確な回答を踏まえた上で、長浜幼稚園に隣接するというなら

説明として筋が通るが、私はその筋は通ってないと見ている。つじつまが合っていないのではないかと。

西村委員長

私はこちらの委員会の考え方が、筋が通っていると思っている。11月の全員協議会の資料はすぐ出せるか。

下間書記

今送る。

西村委員長

これの3ページの枠内。幼児教育における教育力向上機関としての役割。(1) 幼児教育の研究と実践、これはよい。(2) 幼児教育センターとしての機能とある。ということはこの統合幼稚園の中にこういう機能を持たせるという発想なのである。僕らが考えている、要するに別組織体のようなイメージとは違うものを市は現時点で持っているのではないかと。

下間書記

看板を二つ掲げるようなイメージだと、前に言われた。

三浦委員

そう言っていた。

西村委員長

私もそう思っていたが、「機能を持たせる」という表現に違和感を持った。ここが違うともう、組織上の問題になってくるので、合わなくなる可能性もある。

一応、今回は先ほどの三浦委員の指摘も含めて、多分ほぼ直しができた状態のものを皆にお示しできればと思っているが、今日は三浦委員の説明に終わらせていただき、皆に出してもらった宿題、市立幼稚園存続の必要性についての意見をもとに各委員から説明をいただきたい。

西田委員

今までも保護者との意見交換などさまざまな過程の中で思ったのは、幼児を持つ保護者の考え方や生活、預かり保育に依存する保護者も多いのだが、一人一人の子どもの可能性を将来に向けて最大限に育む、そういう幼児教育環境を求める保護者も一定数いる。特に石見や長浜の保護者から聞くには、転勤された方が割合としては多い感じがした。

保育の無償化で公立幼稚園のメリットがなくなったということもあったが、公立幼稚園のニーズは確実にあると感じる。私立で保育料がかかっても教育に取り組むところに子どもを行かせたいという親もいる。公立幼稚園の魅力化に関して、教育委員会としての姿勢や思いが欠けていたのではと。それは少し残念である。

今後は市の目指す幼児教育、子ども像を育むための、全国の手本になるようなレベルの高い幼児教育施設を1園つくり上げることが市の使命だと感じる。

三浦委員

私が市立幼稚園を存続させるべきと考える理由は、質の高い幼児教育の実践とその成果を市内のほか園に還元することによる、市全体としての幼児教育の水準維持、向上のために必要だと考える。

幼児教育現場でどのようなプログラムなどを実践しているのか、見本として見せていく実践の場として。市立幼稚園だけでなく共通課題もたくさんあると思うので、そういうことに取り組むための現場としても必要だろう。

また、特別な支援が必要な児童に対応、これはきちんと公立幼稚園として子どもを預かる場が必要だと。

小学校の特別支援学級における教育の連続性や一貫性を持った組織的アプローチを可能ということで、今は小学校・中学校の市立機関への連続性・一貫性を持った教育方針のもとに子どもにかかわっていくことを

きちんと担保するために。そういうことが可能になるということで、円滑な接続も含めて公立幼稚園の一つの役割があるのではと思っている。

西川委員
西村委員長
西川委員

私は勘違いしていた。

これはどういう発想で書かれたのか。

統合についての考えということだと思ったので。なぜ存続かとなると、必要だとだけ言っておく。

芦谷副委員長

そもそも入り口の考え方で整理してみた。①はここにあるとおり民間委託され、行政として就学前の教育に対する関与や、あるいは公教育の推進など行政責任が果たされてない、あるいはその姿勢が弱い。市立幼稚園を整備することでその責任を果たすということ。

②には、市立幼稚園と保育所、幼児教育センター、子育て支援センターといったものを連動させて一体となった体制をつくったらどうか。そのことで就学前教育の行政成果が図られる。

牛尾委員

代表質問で取り上げているのでさらっと書いたが、僕の場合は10年以上前から幼稚園を残すよう統合反対運動をやってきたり、その結果、新園をつくることになった。市長が変わって先送りになり、今回、長浜幼稚園を残すことになった。この10年以上を見ていると教育委員会の幼稚園政策に対する姿勢は二転三転しており、なっていない。

それはそれとして今までのことはよいから新しいものを早く建てろというのが結論で。

この間の意見を聞いていても、幼稚園について一番こだわるのは、10年の間に保護者は入れかわるが、しかしその都度そのときにいる保護者が、1園を残してほしいとずっと切実に訴えてきた。

園長が言うには、幼稚園型のこども園がないからもうぐちゃぐちゃだと。そういう声もある。お金はあるのだから、なるべく早く新園を建てる方針を出すことが、幼稚園志望者を減らさないための方法ではないか。財政調整基金を使ってでも幼稚園を建てる方針を打ち出し、これからの保護者に向けたメッセージを出す必要があるのではないか。

検証評価についても、1園を残すことでできるのではないか。とにかく早々につくるべきである。

西村委員長

これは先送りされたというのは予算の関係で、衛生管理型荷さばき所が優先されたから。

牛尾委員

僕にとってそれは言いわけに過ぎない。優先順位という言葉は非常にづらい。衛生管理型荷さばき所をつくらないといけませんが、JFしまねができなかつたので仕方なく市が受けた。その予算があるから幼稚園は待ってくれと。しかし財政調整基金には130億あるのだから、補助金がなくても建てられる。そういうことをすることが過去の議員に対する責任でもある。

永見委員

幼稚園の存続がなぜ必要なのかという問いだと勘違いしたところがあるのだが、保育園の保育と幼稚園の未就学児教育の違いがあり、小学校への接続や基本的知識を前もって持たせる場としては大切な施設であるということから、こういう書き方をさせていただいた次第である。

上野委員

今までヒアリングや幼稚園保護者との意見交換会を通じて、幼児教育に寄せる大変熱い声を聞かせていただき、存続は必要だと思う。長浜に

統合して、現実の動向を見ながら新たな場所を選定すると市は言うが、保護者の要望が強い預かり保育や給食といった、園児数を増やす努力をしていかないと、この先新たな園舎が必要ではという心配もしている。

子育て支援センターの付近につくれば、子どもにとっても親御さんにとっても便利な、にぎやかなものができるのではと思う。よその手本になるような施設をつくって出発したほうがよいのでは。

西村委員長

この件については少し時間をかけて議論しないと、ここは大きなポイントになるのではないかと思う。

一旦おいて、民営化あるいは統合の変遷について。

牛尾委員

委員長が言われるように、もともと幼稚園の統廃合は行革の中で議論されていた。

西村委員長

そこがよいのかどうかという議論もある。

牛尾委員

当時はそれが正論だったのかもしれないが、教育を行革で議論するのが大きな間違いだと思う。結果論だが。

西村委員長

やはり首をかしげる部分はある。そういうところから発想してよいのか。

(以下、資料をもとに説明)

牛尾委員

教育委員会は一貫してそういうやり方を取っている。そうなると保護者は、途中でどうなるかわからないから引く。

西村委員長

(以下、資料をもとに説明)

牛尾委員

なぜ統合新園を提案したかということ、原井幼稚園の保護者はバランスを考えて、もともと石見幼稚園は道路が細いし、子どもを送り迎えするのに非常に危ないとずっと言われていて、当時、幼稚園が暴漢に襲われる事件があって、石見幼稚園の立地からすると逃げ場がないという声もあったりして。一方、原井幼稚園の保護者も、吸収合併のような形で向こうに行くのは嫌だということで、それではしかるべきところに双方が寄ってくる統合新園がよいのではないかということで、この時期に提案した。それで統合幼稚園が新設される流れになった。

それ以前に屋根も建物もどちらも古いということもあった。

西村委員長

(以下、資料をもとに説明)

この資料を持っておけば、合併前後から今日までの民営化なり統廃合なりの大きな流れは大体わかる。グラフもつけようと思うが、まだ二つしかつくってないし、これではまだ不十分だと思っている。次回までにできるだけグラフも添えようと思っている。

今までのところで何かあるか。

牛尾委員

行革の中で幼稚園も出てきたのだが、そのほかにも職員給与が高すぎるとか、合併を前にしていろいろな問題が行革に上がっていた。だからこれだけを議論したのではなく、いくつかあるうちの一つである。当時、行革は正義だと私も旗を振りながらやってきたのだが、ただ思うのは、教育を行革の中で議論するのは間違っていた。

西村委員長

私は今回調べてそう思ったというわけではないが、こうして20年近くさかのぼって調べてみて、やはり教育委員会に幼児教育のあり方についての明確な意思がどうしても感じられない。

減っていくから結果的に閉園するしかないという。時流に任せた結果に

過ぎない。思いがあつてこうしてみたがうまくいかず結果的に閉園したというのではなく。市の教育委員会の努力に疑問を持たざるを得ない。

今回、合併前の幼稚園園児数を子育て支援課に物すごく苦勞して調べてもらった。なぜ教育委員会にないのか。いずれにせよ、わずか33年前のデータがどこを探しても見つからないような状況に、そのようなことでよいのかと情けない思いがした。

牛尾委員

文書管理は何年なのだ。

下間書記

ものによる。

西村委員長

蓄積としては当然あると思う。

牛尾委員

国際交流でも、最初のころの資料を求めてもないと言われた。自分が持っている資料のほうが詳しいくらいだ。

西村委員長

今回、結果的に統計関係で調べてもらった。それしか調べようがなかった。平成1、2年ごろと7、8年の数字がどうしても見つからなかった。結果として空白もある。

牛尾委員

一般職と現業職は2割違うのに一般財源で補うから職員給与が過大で市民サービスが欠けていくのだという切り口だった。それは間違いなかった。そういう切り口で行革を進めたが、一方で安来市のように現業職を全て一般職にして、用務員の募集をやめさせて、現業職の受け皿として用務員職を確保すべきだということで、それはうまくいった。

保育園を1園残すべきだが全部渡さないと受けないという流れの中で渡したところから、教育委員会がある種楽になり、幼稚園についても節操がなくなったというか。当時はこの案件のため教育委員が採決をしている。本会議場で何対何だったか。

西村委員長

何の採決か。

牛尾委員

4園からなくす話。教育委員会は最終的に、教育委員が決める。それを本会議場で尋ねたら4対1だった。後で教育委員が言われた、あそこまで誰が推したかをさらされたら、今後教育委員をする者がいなくなると。自分たちは当局から言われたら教育委員といえども独自の考え方ではなくて、それに従わざるを得ないだろうと。しかしそれはおかしいということも当時も言った。教育委員会はそういうところ。

西村委員長

グラフを出してもらえないか。別に言わねばならないことがあるわけではないが。一応つくった証を見てもらいたい。

施設入所している児童が減り続けていることしかわからない。もう一つのは、同じではあるが私立と市立と認定こども園に分けたグラフ。コメントが入っているのは、2ページ目の図2だが、2002年度、2007年度に矢印を引っ張っている。2001年度末に市立の松原幼稚園と私立のバルナバ幼稚園が休園している。その子どもたちはどこへ行ったかという市立がカバーしている。あの当時4園あったと思うが、松原幼稚園とバルナバ幼稚園が減った分を4園がカバーしているのではと見て取れる。

もう一つは、11年度から15年度の5年間は、青いグラフを見るとほぼ横並びで減ってない。ここに何があったかはわからないが、多分絶対何かある。

西田委員

図1を見たら原井幼稚園がどんどん減っている。市立幼稚園がだんだん目減りしていく中で夕日ヶ丘幼稚園は逆に増えている。それと認定こど

も園が。それだけ教育を求めている保護者は相当子どもに対する思いがあるのだ。

牛尾委員
西田委員

昔は夕日ヶ丘幼稚園の制服がかわいいとあって保護者に人気があった。認定こども園は幼稚園のような教育はないということだったし、幼稚園と認定こども園と保育園、この三つの中で教育の質の部分の部分を保護者は求めていると思うが、現場ではその違いはどのようなだろう。

牛尾委員

教育委員会のOBが言われるのだが、現行の認定こども園を見ていたらぐしゃぐしゃだと。幼稚園部も保育園部も境がない。それは保育園型の認定こども園だからどうしてもそうなる。幼稚園の運営経験がない法人がそれをやるのだから、やはりそういうことがあるのか。

この間話を聞いた保護者は、入れたけどやっぱり違うと思ってやめたと言われた。だからそういう傾向にあるのは間違いない。

西田委員

保育士と幼稚園教諭は別の資格なのだろう。教諭としてかかわる場合ははっきり違いがあって当たり前だと思うのだが。

牛尾委員

今は保育士といっても小学校の免許を持っているものを優先して採用していると。しかし僕も、人の話を聞くが現場で幼稚園も保育園もぐしゃぐしゃなのを自分の目で見たわけではないからわからない。

しかし経験者は、市立幼稚園のような教育は認定こども園ではなされてないと。どこに原因があるかはわからない。そこまで手が回らないのか。

西田委員

小中学校の教諭はどちらにも行くようだが、幼稚園教諭はどのようなのか。幼稚園教諭はあくまでも幼稚園教諭としての資格なのか。

(「はい」という声あり)

それならそれをきちんと取った人なら、それなりに中身が違うと思うのだが。

芦谷副委員長

わからないが一般的に短大などへ行けば両方取れる。保育士資格と幼稚園教諭と。

永見委員

しかし所管が違うだろう。

芦谷副委員長

両方取るはず。

三浦委員

取る場合もある。

牛尾委員

個別にお金がかかるだろう。どうなのか。

下間書記

私は教育学部だったが、小学校・幼稚園・高校は取れるが保育士はなかった。多分自分で勉強して取ることはできると思う。

永見委員

うちの娘は幼稚園教諭。

三浦委員

うちの母親は両方持っている、幼稚園教諭と保育士。余計に単位は必要だったろうが。

下間書記

教育学部の授業で保育士の勉強はないので、大学によるかもしれないが自分で取るのではないか。

牛尾委員

恐らく別単位で授業料が上乘せになる。

西田委員

教員免許を取るのでも、本当に子どもが好きで子どもとかかわりたい、一人一人を育みたいという思いが強くてそちらがメインで取る人と、自分の将来、生活のためにとりあえず資格を取っておいて勤めていれば何とか生活できるという感覚で取る人との違いかもしれない。思いの違い。そうなる子どもを育てたい思いの人に増えてもらうほうがありがたい。

西川委員

公立幼稚園に行くと2時まで園児がいて、2時から帰る。そのまま5時まで遊んでいるわけではない。振り返りの教育プランをやっているから教育の質が高いのは間違いないと思う。

今は大体、幼稚園教諭と保育士の資格両方を持っている人が入ってくるらしい。もし2時に帰ったらその職員はほかの仕事をするのではと思う。だから教育の質が違うのでは。

上野委員

そのことは去年くらいから、こども園もそういうのを取り入れているのか。

西村委員長

30年から。

上野委員

うちも去年から認定こども園に引っ張られた。帰るのは遅いし。

牛尾委員

幼稚園が終わったらその後、保育園の仕事に従事させられるのだろう。

西村委員長

要するにそういう実態があるということ。30年に幼稚園の教育要領が改訂され、今の認定こども園も保育所も同じ育みたい同一の姿を描いて、それを目標にということに変わっていった。改訂の背景にどんな理由があるのか。今は幼児教育センターが中心となって研修などやって、10の姿など保育所でもやっているのだろう。逆にいえばそれまでは統一したものがなかったということである。全て統一した形でやろうとされたのはどういう背景があったのか。

芦谷副委員長

私の理解では、保育所保育指針というのはその中に、幼稚園教育要領に準じてやることになっているので、現場では保育所保育指針と幼稚園教育要領とを一緒にした形で両方ともやっている。

西村委員長

何が一緒なのか。

芦谷副委員長

保育園の教育方針も、幼稚園の教育方針も。

牛尾委員

だから結局、10の方針などいろいろわかっているが、幼稚園と違って2時で子どもが帰るわけではないから、ずっと子どもの世話をする必要があって自分の研修がなかなかできないというのが実態である。

方針としては同じでも実態は、子どもが残っているので現場でそういうことをするのはなかなか不可能なのではないのか。

芦谷副委員長

子どもが好きでかわいがって一生懸命やろうという先生方が求められる。職員の姿勢というか、自分が前向きで吸収しようとなるとどこかに集まって上から教えてもらってはいはいみたいな感じではなかなか。能動的な考えが一つできればよいと思った。

牛尾委員

各園のリーダーを見ていると結構熱心である。ただ、幼稚園教諭ほど自己研さんの時間がないというのは皆が言う。

西村委員長

それは幼稚園教諭から見ても逆に、自己研さんの余裕はないようなと思うのではないか。

牛尾委員

子どもを放置するわけにいかないから、外部研修にも行けない。余剰人員がいれば行けるが、いっぱい、いっぱい、募集しても来ない。

芦谷副委員長

今は知らないが昭和50年ごろの話では、保育園の先生は幼稚園の先生が短時間勤務であることをうらやましがって、幼稚園の先生は保育園の先生が子守りだけして楽そうだとうらやましがる。両方の意識に何となく差がある。

牛尾委員

ゼロ歳児保育などいろいろ引き受けていけば現場は大変だろうから。3歳までの教育はお任せで、放置であり、そこをどうするか。

西村委員長

僕ら議員も、教育とはどうあるべきかみたいな話を、多分したことがないと思う。

牛尾委員

統合問題は扱いやすいから。僕も平成13年か14年ぐらいに総務文教委員会にいた記憶があるのだが、ここまでこの委員会は結構突き詰めてやるのだなと感心している。

西村委員長

委員会というより、今は議会改革の一環でそういう空気なだけで。

西田委員

やはり教育に関しては行革であってはならない。

直接の教育にかかわることは潤沢な予算を設けるべき。教育施設や教育に付随的にかかわるものは行革の対象になると思うが、子どもそのものに直接かかわることは、絶対行革の対象にしてはいけない。別物である。

牛尾委員

だから今回、委員会としてある種突っ込んだ提案をすると、それはそれで教育委員会が動くかもしれない。

西村委員長

3時くらいをめぐり今日は終わりたいと思っているのだが。皆、定例会議を目前に控えて勉強をしないといけないだろうし。自分の一般質問のこともあると思うので、一旦しばらくこの問題から遠ざかる部分も出てくるとは思うのだが。

どうしても統合問題が一つ大きな問題で、手つかずとは言わないまでもまだそれほど深く切り込んでないと私は受けとめている。

そこを突っ込んでやりたいのだが。個人的に問題提起として思うのは11月の全員協議会で出された新しい方針を見て、それと実態、園児が全部合わせても50人くらい。それが令和5年には統合になるという方針となっている。いずれにせよ私は非常に疑問というか、強迫観念にかられるのは、児童が極端に減る可能性があること。しかし執行部の案を見ると、何となく、そこそこ児童が残るのではないかとといった期待感を感じているのではないかと思う。がたがたと構想が崩れていく弱点を持っているのではと。

牛尾委員

今回、代表質問で突っ込んだ質問をするつもりである。答えを聞こうと思って。

永見委員

夕日ヶ丘幼稚園を見る限り、そこまで極端な減り方はしていない。

西村委員長

確か来年度の市立幼稚園の園児数は42名だと予測されている。新しい園児は10、11人というレベルだろう。そういう流れで予測すると、もう統合の令和5年4月1日を迎えたときには半減くらいしていることは十分予測できると思っている。

その上に、今の執行部の考え方や姿勢を聞くと、給食、預かり保育、通級指導教室をやると言っているがそれも統合してからの話だと言うし、そう見るともっと少なくなる予測もできると思っているし、3園、4園が1園に減ってもう選びようがないわけで。そういうことを考えると本当に、思い描いているようなことになるのかという思いもある。

皆がどのように捉えているかわからないが、そういう意味では非常に、執行部がどれだけの緊張感をもって令和5年を迎えようとしているか疑問視している。

そういう意味で準備室は2年なり、1年半なりをかけて準備して、アクションプランも令和5年4月1日からスタートという状態をつくってようやく、勝負できる条件が少し開けてくると思う。そういう私も思いと執行部の

思い描いているこれから統合までの約2年間のスケジュールというか姿には大きなギャップがある気がしていて、それが私の今回の一般質問のテーマにある。

そういうことも議論に入れ込む形で、実際には3月定例会議の終わりからの再開のような格好になるのではと思っている。

要するに今後の議論の方向性についてだけ意見を聞かせていただきたい。社会教育については三浦委員が言われたように、私ももう少し議論がほしい。

三浦委員

統合問題に関しては、先ほど委員長がおっしゃったように、この間あの委員会で聞いたときにも、何とかこの人数が今年も集まったと、あのような雰囲気は全然危機感がない。5年度まで待っている余裕はなくて、このサービスについては、本当にこれが適切な三つなのかは検証が必要だが、早く委員会として提案するべきだと僕は思う。

個人一般質問など議員個人的なものではなく委員会の総意として出すことに意義があると私は思う。

だから前半部分のアクションプランの策定と、幼児教育センターのところにに関してよりも、時期的には後者の統合問題を、場合によっては切り離してでも早くまとめて提言するべきだと思う。

委員長も言われたが社会教育だとか、島根県の幼児教育振興プログラムに書かれている項目については別途議論して、前段部分を膨らませてこちらはこちらで出す。

後半部分は、保護者から出ている三つの要望を主に、ほかにも第四、第五のサービスが必要なのかも含めて、早急に出して、令和4年からなのか、令和5年からなのか、そういうことではなくて、できるだけ早く着手してほしいということを、できるだけ前倒しでやったほうがよいのではないかと思う。

牛尾委員

委員会が提案すると執行部も、委員会の提案があったからというので多少動きやすくなるのではと思う。

僕は代表質問で、一日でも早く新園をオープンするべきだと提案するつもりである。

西田委員

私も教育方針を見て、かなりがくっときている。4園を1園に統合する方針を示した、それは令和5年度である。その令和5年度になると入園者が半減するかもしれない。それから統合幼稚園の建設を数年後を目途にやるなど、最初からやる気がない。新園を建てる予算などかける気はないが、申しわけにつけ足しに、委員会の気持ちを和らげるために。申しわけ程度につけている感じだ。

西村委員長

そういうこともあろうが、やはり執行部はひよっとしたら、がくんと減ることも予測している。だから新園を建てる段にならないという可能性が非常にあると執行部は見ているのだ。

牛尾委員

この十数年、教育委員会は全てそのようにやってきた。けしからぬことだと怒らねば、委員長。お金ならある。たったの6億円超どうってことない。そのくらいの迫力で委員会として申し入れ整理をしてほしい。

西村委員長

わかった。

大きく分けたら、ソフト的なあるべき論みたいな部分と、いわゆる1項

と2項の統合論となろうかと思う。

今の三浦委員の提案は、2のほうは急ぐし、まとめ上げて委員会として提案すべきだと。皆の同調があったと受け止めたので、その議論を優先的にして、大まかにはそういうことでよろしいか。

私はこれ以上言うと、また時間がなくなるので言わないが、私としては1園に統合というのは、また別な思いもある。いずれにしても、その議論を優先的にやって、1日でも早くまとめ上げることに焦点を絞った話し合いを持つということによいか。

あと日程的なことは、やはり決めておかないといけない。

牛尾委員

今の話で、この議会が始まる前に委員会として提案すべきではないか、統合だけに絞っていけば。できないことはないと思う。難しいか。そんなにできないことではないと思う。統合に絞って申し入れをするなら。

下間書記
牛尾委員

個人一般質問や会派代表質問にも出ているのだが、どちらがよいか。

委員会としても申し入れをしておく。それは別段、返事をするわけではないが、申し入れをしたと。そのことが多少プレッシャーにならないだろうか。

下間書記
牛尾委員

どちらが、プレッシャーが高いだろうか。

それは会期中でもよいのだが、3月定例会議が終わってから申し入れをするというのはぬるい気がする。

本当にやる気があるなら議会が動いているうちに、まあ通年会期だからいつでもよいのだが。本当にやる気があるなら、皆さん会派代表質問も個人一般質問もある中で、総務文教委員会が先般こういう提言をされたが、ということをするればよいかもしれない。

僕は政策提言なのだから遠慮する必要はないと思う。議会に求められた能力はこういうところにあるのだから。執行部ではないのだから。そう思うのだが、ただ、統合については、早いにこしたことはないのではないか。

新しい園をつくることについては、皆共通認識があるわけだから。それを文言的にまとめてする。長浜幼稚園にではなく、やはり新園をつくるべきではないかと。今日出してもらったものを入れながら。だから委員長が言われるように二つの園で交流もあったほうがよい。

西村委員長
牛尾委員
西村委員長

私は、それは分かれる部分もあると思っている。この委員会の中で。

それはよい。ただそのとおりにやるべきだというのが僕の意見である。

正直、開会前までにというのは、急ぎすぎというか、まとめる自信がない。

牛尾委員

それなら委員長としては具体的にどれぐらいまでならよいと思っているのか。

西村委員長
牛尾委員

そう言われると答えられないが。

しかし委員長なのだから、その辺の目安は、例えば定例会議が終わってじっくりとか、定例会議中に何とかしたいとか、トップとしてそういう見解は持ってもらわないと困る。

西村委員長

皆が例えば同じようなストーリーを描いているなら、大体のめどがつくが、まだそこまで踏み込んで聞いてないし、私自身が皆と少し違うのではと思うところがある。それが多分、一般質問で明らかになると思っ

ている。

牛尾委員
西村委員長

意見を集約しても委員長がそれに乗らないわけだから。

それはやってみないとわからないが、その可能性もなくはない。ただ議論だから、変わっていくものである。

牛尾委員

しかし三浦委員がせっかくあのような提案をして、これだけ先にするべきではないかと議論したので、それは皆、同意だろう。

西村委員長

だからそれは基本的にはその問題に絞った議論にしていく、という点は理解している。

どうなのか、私も困る。日程の問題もだが、開会までにとというのは私は難しいと思っている。

西田委員

今の流れを見ると、開会までには難しい。このやりとりで決めるのは。今度、会派代表質問などで牛尾委員も代表で質問されるようなのでしっかり聞かせていただき、皆がある程度、思いが煮詰まったところで、すぐまた委員会もあるのだから少しワンクッションにおいて、委員会などでまたこの話をして、この定例会議中に出そうか、その辺をまた話をされてもよいかという気がする。

今の様子では定例会議までにとというのは難しい気がする。

牛尾委員

定かではないが、僕が伝え聞いているのは、どうも執行部は長浜幼稚園では難しいという考えを持っていると聞いている。それを今回どのように表現するのかわからないが。

仮に新園をつくるべきだと、そこで答弁するかもしれない。

西田委員

それならそれでよいと思う。それを委員会として後押しすればよいかと思う。

牛尾委員

そういうこともあるのかなという話を聞いただけで、どうなるかはわからない。

西田委員

この前、新聞に記事があったのだが、東日本大震災後に幼稚園、保育園、保育所、全国に物すごい数あるが、災害の起きやすい立地の幼稚園には全自治体にアンケートで、移転するか、既に移転しているか、今後移転する気があるか、調査している。浜田もそれに回答していると思う。だから今まで長浜幼稚園を考えていたのが、万が一、明治5年のような災害が発生したらと考えて気持ちが揺らいでいるのかという気がする。

牛尾委員

場所についても一つあるとすれば、野外ステージがあるのだが平成4年に商工会議所の青年部が台風にあってコンサートが失敗し3千万円の借金を背負った。当時、僕は土地開発公社理事だったので、そういうこともあるので浜田を巻き込んで3千万円の穴埋めをしてもらったのだが、4千万円しかない予算を1億円積み上げて、1億4千万円であの野外ステージをつくった。結構、視察にも行ってあれを土地開発公社でつくったのだけど、今やゲートボールだけ。ステージも20数年たって劣化して、なかなか大変のようである。

逆に言えば、あそこは初期の目標は果たしているから、新しい幼稚園ができてよいかと思っている。それをどこかで言わないといけないかと思っている。

西田委員
牛尾委員

以前は健康福祉フェスティバルか何かをやっていた場所か。

そう、今はやってないが。

西村委員長
牛尾委員

あまり使っていないところである。
当時、僕ら会議所青年部は毎年大きいコンサートをやって、台風でやられて3千万円の借金を背負っていろいろ支援してもらった。若者がそういうつまづきをすることがあるから野外ステージは、やはりつくるべきだとしてきた歴史があって予算が通った。何回かやったが今はゲートボールをやるくらいで、当初の目標は既に終わったのであそこにつくってもよいという提案の仕方もある。

ただ、なし崩し的に子どもが減っていく中で、次の目標を皆に見せないと。それでなくとも減っていくのだから、早目に見せるほうが効果があると個人的に思っている。

西村委員長

それには異論はない。
このままでは膠着状態なので。一応、定例会議期間中に一度委員会を持つことをとりあえず決めたい。予算決算委員会なども、3月だから議題が少ないということはないのだろうな。

下間書記

はい、何時に終わるかわからない。委員会の前に集まることは可能かと思う。初日に所管事務調査の関係で委員会は開くが。

西村委員長

私が思ったのは、一通り一般質問を聞いてからなるべく早いうちにと
いう思いがあった。3日が議案質疑だったか。

下間書記

はい。

西村委員長

議案質疑ならそれほど遅くはならないか。

下間書記

わからないが、夕方までかかるようなことにはならないと思う。

三浦委員

議案質疑の日は午後1時から行財政改革推進特別委員会が入っている。

西村委員長

4日が総務文教委員会か。

下間書記

4日の総務文教委員会は議案がたくさんある。しかし夕方までかけてやれば。意見陳述などもある。

三浦委員

ほかの委員会の日に開いたらだめなのか。

下間書記

だめではないが、傍聴できるように1日1委員会にしてある。

三浦委員

これは僕の考えだが、Y o u T u b e で見られるので傍聴でなくとも。そうすればその時間に委員会を開ける。

牛尾委員

議会改革の一環で、1日1委員会ではほかの委員は勉強してもらおうということにしてあるのだが、言われるように理論上はY o u T u b e にアップしているから傍聴しなくてもよいという考え方がある。もし必要ならどこかの委員会の後に。どこの委員会の議案が少ないか。

下間書記

福祉環境委員会だろう。4日の総務文教委員会が何時に終わるかわからないが、その流れでやってはだめなのか。

三浦委員

それでもよいと思う。

下間書記

それで終わらなければまた設定してもよいのでは。

西村委員長

ではどうでしょうか。最低1時間は要るだろうから、4時くらいに終われば。では一応4日の委員会の引き続きで。

(「はい」という声あり)

下間書記

それは何か宿題はないか。

西村委員長

私がそれまでにどれくらい仕上げられるか。勘違いしていたという人は頭の中をそれ用に。市立幼稚園の存続の必要性について。

芦谷副委員長

福祉環境委員会のまとめはできたのか。要望はもうされたのか。

下間書記	今からされるようである。一部分だけ早くやりたいとのことで、それを先にされるらしい。
芦谷副委員長	その日程と、できればその内容もある程度こちらが見ておかないといけない。
下間書記	まだ要望書の中身は見していない。
西川委員	母子手帳アプリと公園についての2件らしい。
三浦委員	一部、保育の部分も項目に上がっているのでそこは一緒に。
下間書記	今タブレットに配信されているものがある。最終的なものではないと思うが。一部分の要望書は大体つくられている。18日にそれを市長に渡す予定を調整中のようである。
	もう1点、西川委員から情報提供いただいていた新聞の切り抜きもタブレットに配信している。
西村委員長	こちらのほうが拡大できて見やすい。 (各自、新聞記事を熟読)
下間書記	連携してやっておられるということで理想的である。
三浦委員	以前、松原町の子育て支援センターが変わると言っているところで、連携はどうかと前に質問したら、全く別個のものだからやってないという答弁が返ってきて、いやそれはちょっとと思った。
	ここはすごくよい。
西村委員長	では以上で総務文教委員会を終わる。

[15 時 29分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 西村 健 ㊞